

2、第1学年の取り組み

(1) 算数チャレンジの取り組み

時 期	内 容
2学期始め頃 (国語の教科書の音読にも慣れてきた頃)	<ul style="list-style-type: none"> ・算数チャレンジの目的と方法を伝える。 ・宿題として算数チャレンジに取り組みせる。
2学期中頃	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の始めにその日の算数チャレンジの理解度をチェックする。 ・音読だけでなく、解けそうな問題があれば、挑戦するように伝える。 ・算数チャレンジに取り組むことで、授業に主体的に取り組むことができている児童の姿を学級で紹介し共有する。

(2) 算数チャレンジに取り組んだ成果 (◎) と今後の課題 (●)

◎児童がその日の学習に対する見通しをもった状態で、授業に臨むことができた。そのため、授業がテンポよく進み、習熟の時間を確実に設けることができた。

◎算数チャレンジに取り組むことで、学習や問題へ対する自信をもって授業に臨むことができていた。毎日の授業の中でも「今日の授業はお家で解いてきたからすぐ分かった!」や「算数チャレンジしてきたから練習問題が簡単です。」というような声を聞く場面が増えた。このように算数の授業に前向きに参加する児童が多く見られるようになった。

●多くの児童が算数チャレンジに取り組んでいる一方、数名程度の児童は算数チャレンジに取り組めていない。1年生の児童に声を掛けるだけでは、改善しないと感じるので、通信等で保護者への協力を定期的に促す必要がある。

●1年生の発達段階においては、自ら算数チャレンジをする良さを実感できることは難しかったため、教師が意識的に算数チャレンジをすることの良さを伝える必要があった。そうすることで、算数チャレンジに取り組む児童も増えると同時に、問題の音読のみを行っていた児童も問題を解くところまでやってみる等、算数チャレンジ全体の底上げにつながったのではないかと感じる。

●算数チャレンジをしたことで、時間的な余裕が生まれたが、その時間を使って学び合い、教え合い活動を取り入れることが十分にできなかった。自分の考えや解いた問題の答えを見せ合って確認し合うところまではできているが、教え合う、説明し合うというレベルまでは到達していない。1年生の発達段階を考慮した、児童同士の交流活動をもっと早い時期から設けておく必要があったと感じる。

(3) 目指す児童の姿として参考となる資料

【交流タイム】

一人でタイムや算数チャレンジ（予習）で考えた自分の考えを学級の前で発表したり、児童同士で答えや考えを交流したりすることができている。（資料1、資料2）



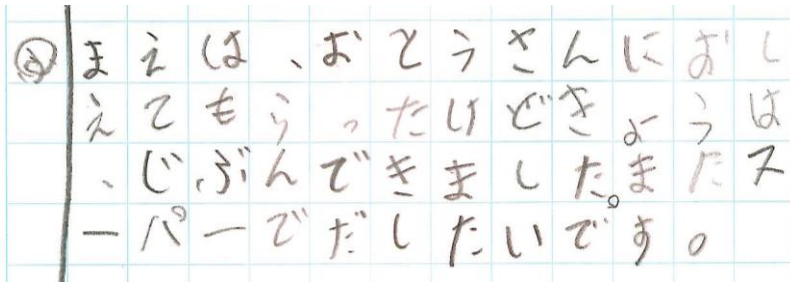
資料1



資料2

【授業の振り返り】

授業を通して、できるようになったことや分かったこと、友達が発表してすごいと思ったこと、これからどんな風にしたいかを振り返りとしてノートに書いたり、発表したりすることができている。（資料3）



（資料3）

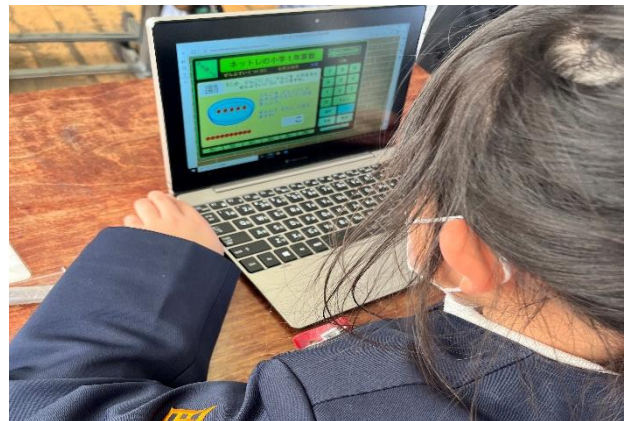
「大きいかず」の単元で、お金の出し方について考える授業についての児童の振り返り

【習熟タイム】

授業の中で新しく学んだことを教科書内の練習問題や教師が準備したプリント、タブレットを用いて定着させようと取り組むことができている。（資料4、資料5）



資料4



資料5